

笑顔の ひろば

vol. 42

2018年 冬号

川崎協同病院
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>

初期行動訓練とトリアージの学習を重点に！ 2018年度消防訓練を開催



大地震にともなう火災を想定して、10月20日、川崎協同病院では消防訓練を行いました。こうした消防訓練は年に一度行っていますが、今回の訓練の目的は、防災対策の問題点の洗い出しと、今後の防災対策の充実と職員の防災意識の向上、緊急・災害時対応マニュアルなどの改善です。特に災害発生時の初期行動訓練とトリアージの学習に重点を置きました。

全体ミーティングでの説明の後、職員は各持ち場へ移動。シナリオの一部は非公表とし、開始後は各職場の防災マニュアルに従って行動しました。主にEMISに対応した災害時報告用紙の運用、連絡通報、初期消火、避難誘導などにとりかかりました。

訓練後には、防災委員の能城一矢医師による「初歩からのトリアージ訓練」と題した講義が職員に対して行われ、その中で能城医師は、「1次トリアージは医師以外の職種もするため、病院全体での訓練が重要だ」と、強調しました。また、「倒壊した家屋から救出され、救急隊で搬送」といった例をもとに、歩行・呼吸・脈（循環）・会話（意識）状態などのデータからトリアージする練習問題も行われました。

訓練のあとに開かれた防災委員会では、「マニュアルの重要性を再認識した」「具体的な避難方法の再確認が必要」「トリアージ学習会をまた開催してほしい」などの感想や提案があり、今後の課題となりました。



想定した出火場所での初期消火訓練

当院の防災委員会は、各職場から選出された防災委員によって年間スケジュールを立て、これまで毎月、会議・学習会・訓練を開催してきましたが、今年度は特に初期対応の学習に重点を置いてきました。

会議では、方針を作成し、訓練・学習会を計画し、実施後には総括をします。学習会では、定例防災学習会に加え、自治体防災センターの見学などもしています。特に、定例防災学習会に多くの職員が参加するようにと開催日を多く設定しました。

訓練では、病院全体の消防訓練だけでなく、職場ごとの消火器・消火栓の使用訓練や避難経路確認、災害用伝言ダイヤルの使用訓練なども行い、自治体の災害時病院連携訓練にも参加しています。

EMIS（イーミス）とは？

広域災害救急医療情報システム。災害医療に関する総合的な情報を医療機関、中央官庁、自治体、消防などで共有するしくみ。

トリアージとは？

限られた資源の中で、最大多数の傷病者に、最善の治療を施すために、傷病者の緊急度・重症度により、治療優先度を定めること。1次トリアージでは素早さを重視し患者の分類をおこない、2次トリアージでは解剖学的評価を加えて高精度な分類を行う。



トリアージの重要性を語る能城医師

「健康の社会的決定要因」に取り組む活動レポート

川崎協同病院 総合診療科 吉田 絵理子

from
カナダ
トロント



視察に参加した医師らと筆者（前列左から3番目）

健康の社会的決定要因という言葉を知っていますか？近年、健康には遺伝的要因や生活習慣だけではなく、所得や仕事、人との繋がり、医療へのアクセスなどの社会的要因が大きく影響していることが科学的に明らかになっています。病を患った患者さんを診るだけではなく、疾病を作り出している健康の社会的決定要因にどうアプローチするかということが医療における大きなトピックになりつつあります。

今回、全日本民主医療機関連合会の企画として、カナダのトロントで医療者が健康の社会的決定要因にどのように取り組んでいるかの視察旅行が行われました。医師11人のうちの1人として、2018年9月の1週間この視察に参加しました。

この視察をコーディネートされたのは、トロントにある聖ミカエル病院の診療所に勤務する家庭医の Gary Bloch 先生です。聖ミカエル病院だけではなく、Women's College 病院、Workers Action Center、カナダ家庭医協会など様々な施設での医療活動を視察することができました。Gary 先生たちを含むトロントの家庭医の先生たちやコメディカルからなる医療チームは、社会的決定要因に対する様々な活動をされていました。

例えば、聖ミカエル病院には、患者の経済的な問題への支援を専門で行う部署があり、法律的課題に取り組むために法律専門家を雇っていました。また、社会的に恵まれない子供たちの読み書きの能力を高めるために、本をプレゼントする取り組みも行われています。こうした活動の資金は様々な基金や研究費、寄付金として外部から取得していました。聖ミカエル病院の中には、研究所もあり、こうした画期的な医療活動は研究プロジェクトの一環にもなっていて、行った活動の効果を評価し、論文文化して発表していく流れも整備されていました。

またトロントの街中での医療活動の視察も行いました。カナダでは先住民が非常に厳しい生活環境に追いやられ

てきた歴史があり、医療へのアクセスが困難なことから、先住民向けの医療のサポートセンターや先住民の文化を尊重し安心してお産ができる施設がありました。またトロントでは薬物依存が非常に大きな問題となっています。薬物の過剰摂取で亡くなる人が後を絶たないことから、発想を転換して看護師の見守りのもとで薬物を安全に摂取できる場所を提供したり、道路沿いにポストのように薬物摂取のための針を捨てる箱が用意されており、非常に驚きました。

視察を通して最も印象的だったのは、医療に携わるスタッフ達が住民の健康を守るために、最も虐げられた人たちに公正に医療を届けることは医療の質の1つであると当たり前を受け止めていて、それを実現するために目の前の患者さんだけではなく、地域全体、政府レベルにまで働きかけを戦略的に行っているということでした。

川崎医療生活協同組合は最も虐げられた人々に医療をきちんと届けられているだろうか考えると、行うべき、また行える医療活動はまだまだあると実感しました。ただし、スタッフの「頑張り」に頼るだけでは限界があるので、戦略的に進めていく必要があります。これは全日本民主医療機関連合会全体の課題でもあります。今回の視察で得た経験を咀嚼し、様々なレベルで実践に落とし込んでいきたいと思います。



視察のあい間にナイアガラの滝を訪れる

私が担当します！

こんにちは、医療安全管理室です

9月16日付で医療安全管理専従者として医療安全管理室に配属になりました。協同病院の医療安全管理専従者としては3代目になります。職種は薬剤師です。

「医療安全管理室は何をしている部署なのか」と、疑問におもう人も多いでしょう。医療安全管理室は、責任者である荒木重夫副院長のもと、医療安全管理者として齋藤朱美看護部長、その下に実働者として感染対策責任者（感染管理認定看護師）の渡邊寿美子と医療安全管理専従者である私、ギルダートがいます。

私たちは日々、医療安全にかかわる業務を行っています。職員に身近な業務としては、毎朝の医療安全管理室ラウンドがあります。これは、各職場の環境が感染対策上の基準に沿っているか、安全に仕事ができる環境であるかを確認し、職員や患者さんの安全を守るためのものです。



川崎協同病院 医療安全管理室
医療安全管理専従者 **ギルダート 千晶**

略歴：1996年4月から川崎区内の調剤薬局に勤務。98年に川崎協同病院院内薬局で研修をはじめたのをきっかけに、2002年1月川崎協同病院の薬局に勤務、2018年9月から現職。

このほかの業務としては「ヒヤリハットの分析、集計」、「医療安全に係る教育・研修会の実施」、「患者相談窓口からの相談対応」などがあります。

医療安全管理室は、4階医局の入り口を入ってすぐの右手側にある小部屋です。職員から、院内の安全に関する相談があれば、小さなことでもいつでも受け付ける態勢をとっています。

STAFF「もうひとつの顔」

アイドル声優に夢中

川崎協同病院 医局事務室 医学生担当 **伊東 匠**

川崎協同病院の医局事務室で医学生担当として勤務しています。この仕事に就いてから三年が過ぎました。ふだんは、医局の医師たちと同じスペースにあるデスクで、研修先を探している医学生の病院見学の対応や、医師を目指す高校生向けの企画などを練っています。

この仕事をしていると、どうしても自分のペースで仕事はできません。急な見学の申し込みがあったり、休もうと思っていた日に限って仕事が入ってしまったりすることもあり、これらがつづくストレスにもなります。



出張先の愛媛県で学生（中央）と面談



自宅でも「正装」してDVD鑑賞

そんな私のストレス解消法は「声優」さんのコンサートに行くことです。最近は声優さんも、映画などに声をあてるだけでなく、ある種アイドルのような活動もしていて、自身のCDを出し単独でコンサートを開く人もいます。

声のお仕事をされているので、どの歌も耳に心地よく、また大きな会場ですと1万人を超えるようなファンが色とりどりのペンライトを振り、一斉に歌に合わせた「合いの手」を入れることもあり圧倒されます。

でも、私も「正装」をして大いに楽しみ、時には叫び、ストレスを吹き飛ばしています。ここで活力を得て、病院と学生の懸け橋となるように日々職務に励んでいます。

点滴、吸引、訪問まで。なかはら看護小規模多機能ホーム 馴染みのスタッフで

川崎市中原区上平間の住宅街の一画に、茶色いレンガ風の外壁の3階建て「メディホープなかはらビル」があります。この建物の1階が「なかはら在宅サポートセンター」（一般社団法人メディホープ神奈川）という複合施設で、このなかに宿泊用の個室5部屋とデイサービス用のホールを備えた「なかはら看護小規模多機能ホーム」があります。

「看護小規模多機能ホーム（看多機）」は、まだ聞きなれない施設ですが、従来の「小規模多機能ホーム（小多機）」の機能に加えて、医療が必要な人でも過ごせるように対応した施設になっています。

同じ1階には、「ケアプランセンター」「訪問看護ステーション」、「デイサービス・みやび」が、2、3階には「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）レインボーの家上平間（一般社団法人メディホープかながわ）」があります。

「なかはら看多機」は、このサ高住に併設する形で、2015年7月1日に開設されました。

「当時は、スタッフ5人でスタートし、1年目の利用者は、主にサ高住に入居する10人だった」と開設準備時より勤務する明石めぐみ主任は語ります。4年目になり、利用者は20人ほどに増え、スタッフも16人（看護スタッフ3人、介護スタッフ9人、ケアマネジャー2人、理学療法士1人、送迎ドライバー1人）になりました。ソーシャルワーカーの佐藤洋介は、「今では、サ高住の人もひきつづき利用していますが、周辺地域で在宅療養をする人が利用者全体の6割になった」と言います。

「看多機」は「小多機」とは異なり、「医療行為」を必要とする人が利用できます。胃ろうや点滴で栄養を補っている人が、日中デイサービスとして利用できます。また、



明るい個室にお泊りします



痰吸引の回数が多い人も看護師と介護スタッフが対応するので安心です。

「多機能」という点では、昼間の「デイサービス」のほか、個室での「泊り」ができます。「泊り」の利用は、家族の介護負担軽減のためだけでなく、「看多機」であればこそ、たとえば、点滴治療が必要な時、病院に入院しないで、日頃から慣れた場所で過ごしながらか治療を行うことができます。

また、スタッフが「訪問看護」「訪問ヘルパー」として利用者の自宅に出向いて、点滴したり、家事を手伝ったりすることもできます。手作りの料理を届ける「配食サービス」もあります。

「なかはら看多機」を利用できる人は、川崎市幸区と中原区に住んでいる人で、「なかはら看多機」のケアマネジャーを利用する必要があります。

川崎医療生活協同組合 なかはら看護小規模多機能ホーム
〒211-0013 神奈川県川崎市中原区
上平間1264 メディホープなかはらビル
TEL : 044-276-8708



デイサービス後のカンファレンス

